

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果から

1. 各教科から見る今後の指導について

【国語】

今年度、本校児童は「話す・聞く」領域、「情報の扱い方に関する事項」において、全国平均を上回る結果が見られました。本校における経年変化においても点数が上昇している項目でもあります。各学年の授業時に、話し合い活動や、意見や考えなどを伝え合う活動を大切にしてきた成果であると捉えています。

一方、思考力・判断力・表現力へ分類される内容に関する項目について、全国平均に遅れがちな傾向がみられました。文章と図表などを結び付けたり、必要な情報を読み取ったりする論理的読解力、物語教材の登場人物の心情の変化などを読み取る情緒的読解力の向上を目指した指導をしていきます。

【算数】

算数科における基礎学力の着実な定着を図る指導が必要であると考えています。解答率が高い問題においても、そこから分かったことを記述する思考・判断・表現力を問われる問題になると正答率が低くなる特徴が見られました。従来のように教科書やプリントだけでなく、1人1台パソコンに搭載されているオンラインドリルや学習サイトを活用し、児童自身がより、主体的に学べる環境を最大限活用し、理解を深める手立てを行っていきます。

また、国語科同様に、問題文や図表などから必要な情報を読み取る読解力の向上を図る指導を継続していきます。教科をまたいだ、横断的な指導を行い、算数科だけでなく、総合的に力を発揮できる指導により、磨きをかけていきます。

【理科】

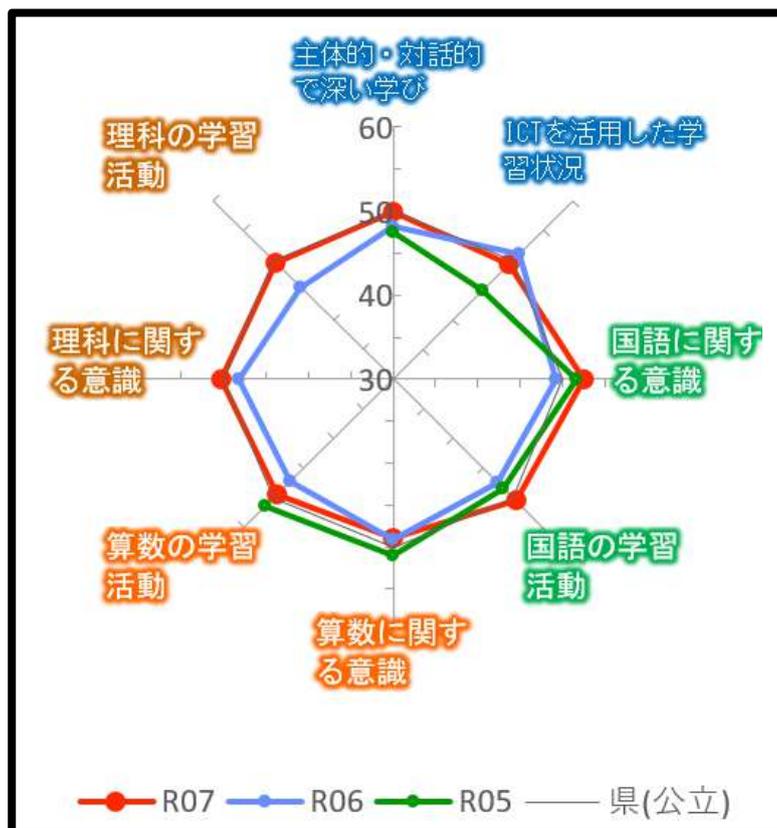
全国・県平均のどちらと比較しても平均を上回る結果となりました。特に、生物、地学分野において高得点を得ています。本校では、理科専門教員が指導にあたり、幅広い専門知識をもった教員のもと、児童たちは理科の学習をしています。今後も、理科に対する興味や関心を高め、主体的に学ぶ姿勢がさらに伸長するような充実した指導を継続していきます。

2. 児童質問調査から見る今後の指導について

右のチャートは、本校の教科を中心とした学力学習状況についての経年変化チャートです。

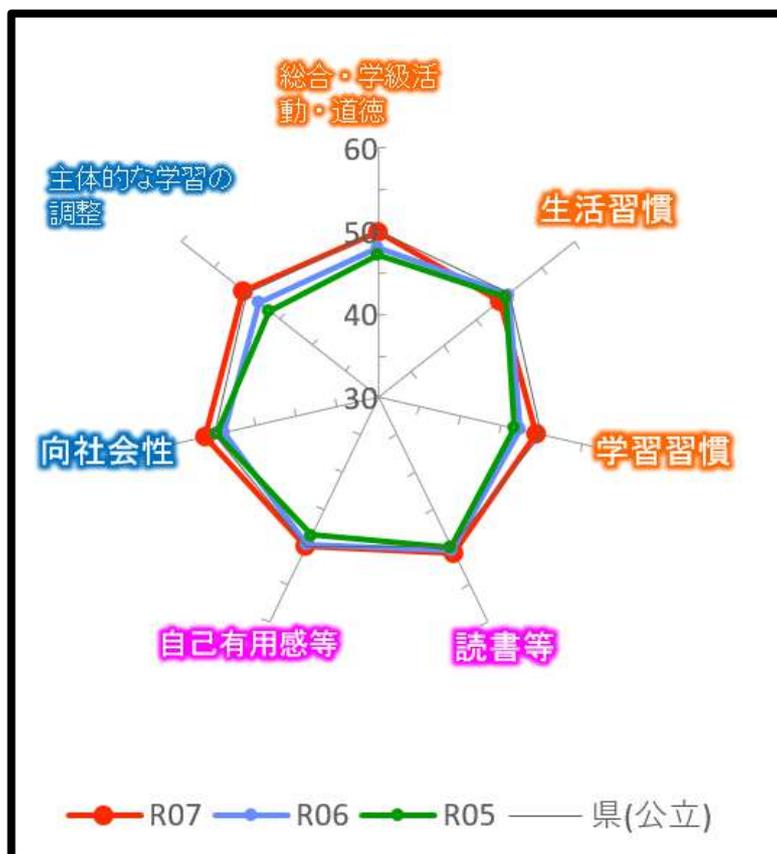
本校では、対話を重視した学習指導を行っています。学習課題について、自分で考え、解決しようとする力の向上と同様に、友達と頭を付き合わせながら、考えや意見を共有し、最適解に迫ろうとする時間を学習時間に設定するようにしています。本調査の「主体的・対話的で深い学び」の項目が少しずつ上昇していることは成果の一つと捉えています。

本校の学校教育目標にあります「力をあわせる子ども」、「必ずやりぬく子ども」の育成へと繋がる他者と関わりながら思考を深め、自分の考えを発信できる力の伸長を引き続き目指していきます。



(教科を中心とした学力・学習状況 経年変化チャート)

本校では、家庭と連携し、児童の正しい生活習慣のもと、学習習慣の定着を図ることでより高い生活力と学力だけでなく、調査項目にありますような社会性や自己有用感が高まることと考えております。引き続き、ご家庭のご協力のもと、児童の「生きる力」の育成を図っていきたくと考えております。学校教育目標の一つ「元気でやさしい子ども」達が笑顔で過ごすことができ、未来を力強く生きていこうとする思いの育成を引き続き目指してまいります。



(その他の学力・学習状況 経年変化チャート)